

病害虫防除技術情報第19号

平成 26 年 3 月 18 日
三重県病害虫防除所

イチゴのアザミウマ類の発生が多くなっています

1 対象作物 : イチゴ

2 対象病害虫名 : アザミウマ類(主にヒラズハナアザミウマ)

3 発生状況 : やや多い

(1)3月上旬の巡回調査(12圃場)では、発生圃場率 41.7%(9年平均 23.3%)、寄生花率 9.1%(9年平均 1.0%)と多発しています(表)。調査で確認された種は、全てヒラズハナアザミウマでした。

(2)一般圃場では、発生量はやや多い状況です。例年、アザミウマ類の発生は気温が上昇する3月以降に増加する傾向にあります。

(3)1か月予報(3月13日・名古屋地方気象台発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高いと予想され、アザミウマ類の発生に好適な条件が続くと考えられます。

表. 巡回調査圃場における3月のアザミウマ類の発生状況

年次	発生圃場率	寄生花率
本年(平成26年)	41.7%	9.1%
9年平均	23.3%	1.0%
平年比	多	多

・各圃場において100花を調査。

・9年平均は平成17年～平成25年の平均値。

4 防除上の注意事項

(1)増殖力が高いため、早期発見に努め、低密度のうちに防除してください。発生量が増加すると、花が不稔になったり、果実表面のつやがなくなり、著しい場合は褐変するなどの被害を生じます。

(2)現在発生が認められない圃場でも、施設の換気に伴って野外から侵入する恐れがあります。換気口や出入口の付近で初発する機会が多いので、花芯部や幼果での発生に注意してください。

(3)薬剤の散布にあたっては、収穫前日数、使用回数とともに、天敵やミツバチに対する影響を十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。